

第2章 本圏域の概況

2-1 地勢

1 位置

本圏域は鹿児島県本土より南へ552km、北緯27度線上に浮かぶ周囲55.8km、面積93.69km²に位置する隆起サンゴ礁の沖永良部島に位置し、南は太平洋、北は東シナ海に面し、北東部に徳之島、南西部に与論島及び沖縄本島が望まれます。

沖永良部島への交通アクセスは空路及び海路があり、空路では鹿児島空港、那覇空港及び奄美大島空港などを発着する飛行機が運航しており、海路では鹿児島新港と那覇港間をフェリーが運航しています。

沖永良部島は温暖な気候であり、テッポウユリやスプレーギクなどの四季を通して南国らしい鮮やかな花々が咲き、海にはザトウクジラやイソマグロなどがみられるとともに、サンゴ礁が広がる自然豊かな島です。

◆図表 2-1-1 本圏域の位置図



出典：「第6次知名町総合振興計画」（令和2年3月）
奄美大島U.Iターン総合サイト「ねりやかねや」ホームページ

2 規模

本圏域の総面積は93.69km²で鹿児島県全体（9,186.38km²）の1.0%を占めており、占有面積の比率は和泊町が43.1%、知名町が56.9%となっています。

また、本圏域の人口は11,827人で、鹿児島県全体（1,617,850人）の人口の0.7%を占めており、本圏域内の占有人口の比率は和泊町が52.6%、知名町が47.4%となっています。

なお、本圏域の人口密度は126人/km²（和泊町：154人/km²、知名町：105人/km²）であり、鹿児島県全体の人口密度（176人/km²）の3分の2程度となっています。

◆図表 2-1-2 本圏域の規模

項目	面積 (km ²) ※1		人口 (人) ※2,3		人口密度 (人/km ²)
		占有率 (%)		占有率 (%)	
本圏域	93.69	100.0	11,827	100.0	126
和泊町	40.39	43.1	6,216	52.6	154
知名町	53.30	56.9	5,611	47.4	105

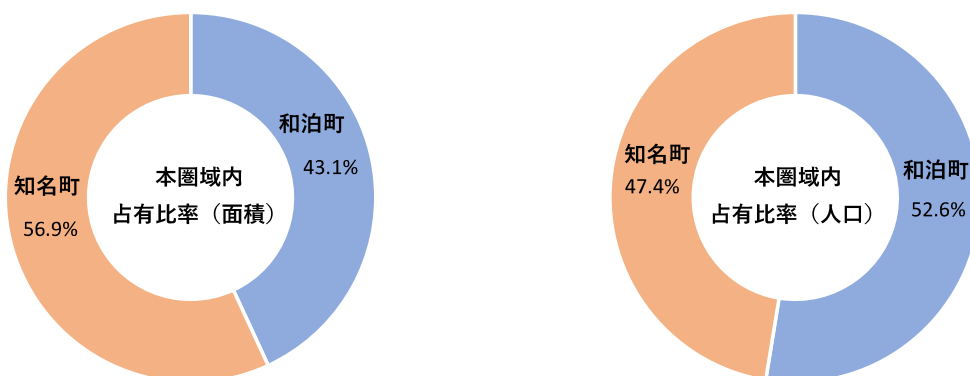
※1：令和4年1月1日現在

※2：和泊町：令和4年4月1日現在の人口

※3：知名町：令和4年3月31日現在の人口

出典：「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」（国土地理院ホームページ）
「広報わどまり」（令和4年5月）（和泊町ホームページ）
「人口世帯集計表」（令和4年4月）（知名町ホームページ）

◆図表 2-1-3 本圏域の占有面積比率及び占有人口比率



◆図表 2-1-4 本圏域及び鹿児島県の規模

項目	面積 (km ²) ※1		人口 (人) ※2,3		人口密度 (人/km ²)
		占有率 (%)		占有率 (%)	
鹿児島県全体	9,186.38	100	1,617,850	100	176
本圏域	93.69	1.0	11,827	0.7	126

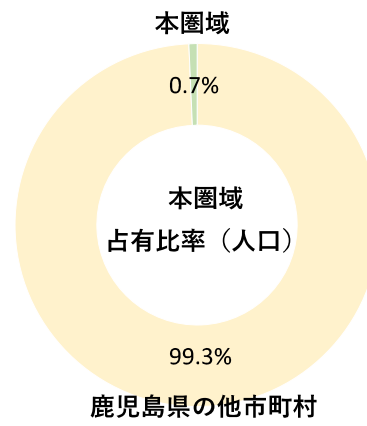
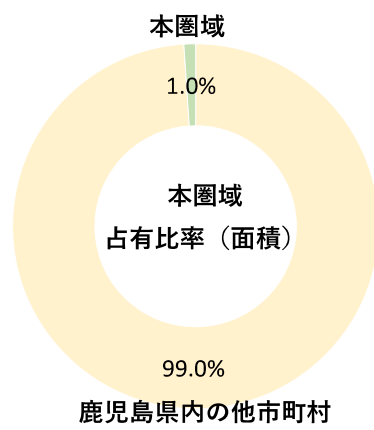
※1：令和4年1月1日現在

※2：鹿児島県：令和3年1月1日現在の人口

※3：本圏域：和泊町及び知名町の合計値

出典：「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」（国土地理院ホームページ）
「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（総務省統計局ホームページ）

◆図表 2-1-5 鹿児島県における本圏域の占有面積比率及び占有人口比率



2-2 気象

本圏域は亜熱帯性気候のため年間を通して温暖であり、以下のような特徴があります。

- ア 月平均気温は図表2-2-1～2に示すように、8月が最も高く（28.6℃）、1月が最も低く（16.5℃）なっています。また、年平均気温は22.6℃であり、全国の年平均気温（14.4℃）と比較すると非常に暖かい気候になっています。
- イ 年平均気温の推移は図表2-2-3～5に示すように、100年あたり1.39℃/100年の割合で上昇し、日本の年平均気温の上昇割合（1.28℃/100年）よりも大きくなっており、地球温暖化による影響が考えられます。
- ウ 降水量は梅雨時期となる6月に最も多くなり、冬（12月～2月）は梅雨時期の3分の1程度まで少なくなる傾向があります。また、降水量の変化傾向の推移は図表2-2-6～7に示すように、梅雨時期から秋にかけての降水量は増加していますが、冬から春における降水量は減少しており、50年あたりでは405.4mm/50年の減少となっています。なお、鹿児島県各地の降水量は増加する地域が多いなかで、本圏域と名瀬地域のみが減少しています。
- エ 奄美地方は台風の常襲地帯であり、近年における台風の接近回数は図表2-2-8に示すように、年間で3～4回（平均：3.8回）となっています。

◆図表 2-2-1 本圏域における降水量及び気温の月別平年値（1991～2020年）

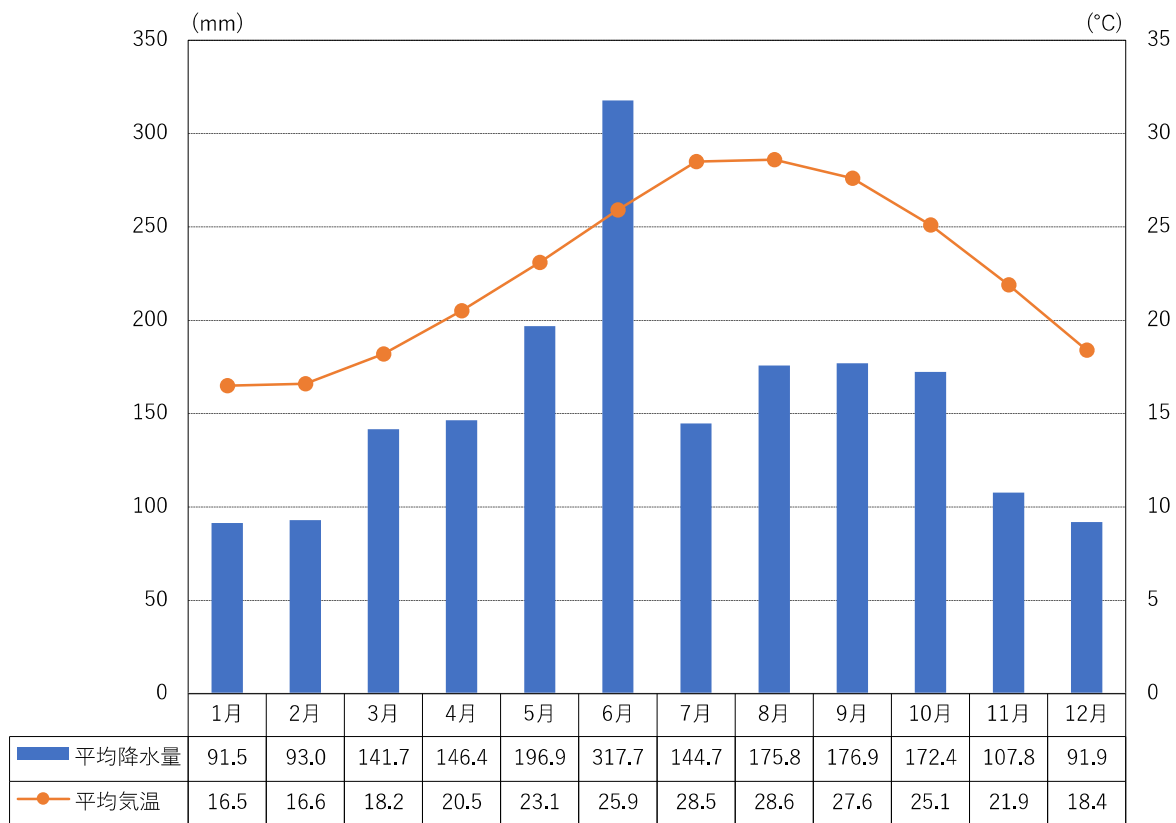
月	降水量 (mm)	気温（℃）		
		平均	日最高	日最低
1月	91.5	16.5	18.8	14.2
2月	93.0	16.6	19.1	14.3
3月	141.7	18.2	20.8	15.8
4月	146.4	20.5	23	18.2
5月	196.9	23.1	25.7	21
6月	317.7	25.9	28.6	24
7月	144.7	28.5	31.3	26.4
8月	175.8	28.6	31.3	26.5
9月	176.9	27.6	30.2	25.5
10月	172.4	25.1	27.5	23.1
11月	107.8	21.9	24.2	19.9
12月	91.9	18.4	20.6	16.1
年	1,856.7	22.6	25.1	20.4

※1 統計期間：1991～2020年

※2 沖永良部特別地域気象観測所

出典：「過去の気象データ」（気象庁ホームページ）

◆図表 2-2-2 本圏域における降水量及び気温の月別平年値（1991～2020年）

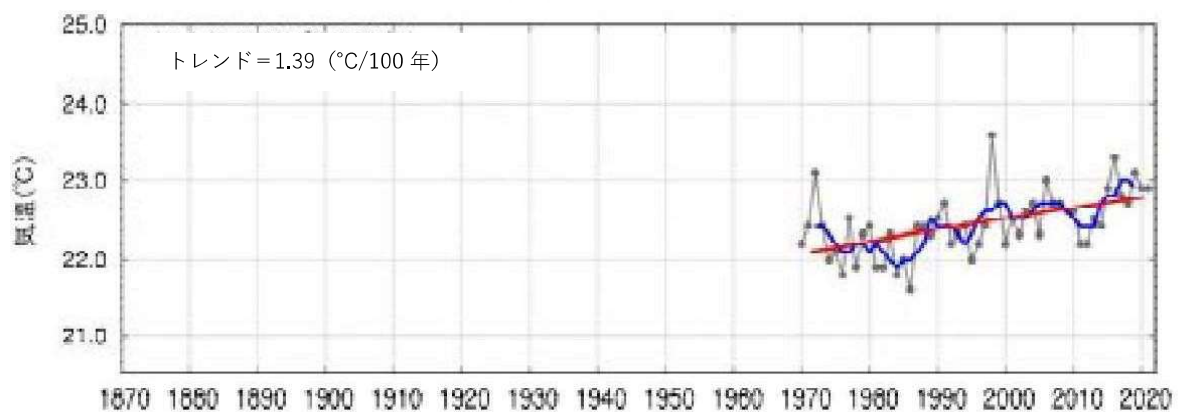


※1 統計期間：1991～2020年

※2 沖永良部特別地域気象観測所

出典：「過去の気象データ」（気象庁ホームページ）

◆図表 2-2-3 本圏域における年平均気温の推移（1970～2021年）



※1 統計期間：1970～2021年

※2 黒の細線：年々の値

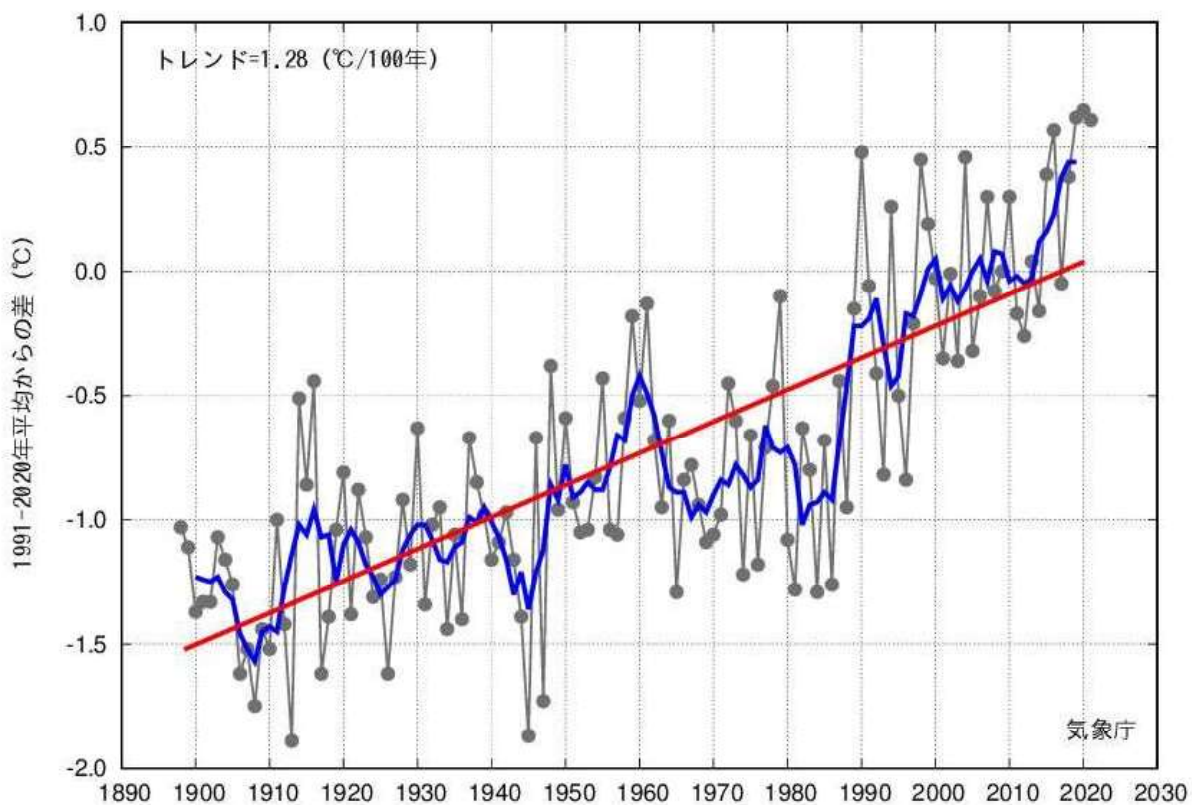
※3 青の太線：5年移動平均

※4 赤の直線：長期変化傾向

※5 気温データは観測所移転の影響を補正しており、公表された観測値と値が異なる場合があります。

出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2021」（気象庁福岡管区気象台ホームページ）

◆図表 2-2-4 日本の年平均気温偏差の推移（1898～2021年）



- ※1 統計期間：1898～2021年
- ※2 基準値：1991～2020年の30年平均值
- ※3 黒の細線：各年の年平均気温の基準値からの偏差
- ※4 青の太線：偏差の5年移動平均値
- ※5 赤の直線：長期変化傾向

出典：「日本の年平均気温」（気象庁ホームページ）

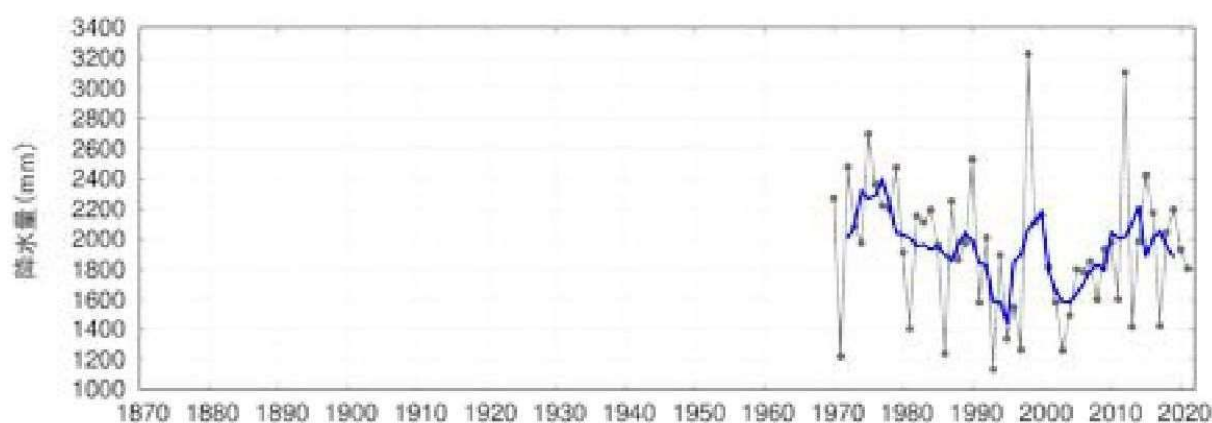
◆図表 2-2-5 鹿児島県各地の年平均気温及び季節ごとの変化傾向

地域	単位	年	春 (3～5月)	夏 (6～8月)	秋 (9～11月)	冬 (12～2月)	統計期間 (年)
鹿児島	°C/100年	1.92	2.10	1.71	2.17	1.69	1884～2021
名瀬	°C/100年	0.95	0.84	1.15	1.12	0.77	1897～2021
阿久根	°C/100年	1.62	1.75	1.40	1.79	1.57	1940～2021
枕崎	°C/100年	1.65	1.79	1.40	1.90	1.56	1924～2021
屋久島	°C/100年	1.24	1.06	1.01	1.17	1.71	1938～2021
種子島	°C/100年	1.61	1.69	1.45	1.77	1.57	1949～2021
沖永良部	°C/100年	1.39	0.99	1.04	1.84	1.75	1970～2021

※1：数値は変化傾向（100年あたりの変化傾向（°C））を表しています。

出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2021」（気象庁福岡管区気象台ホームページ）

◆図表 2-2-6 本圏域の年降水量の推移（1970～2021年）



- ※1 統計期間：1970～2021年
- ※2 黒の細線：年々の値
- ※3 青の太線：5年移動平均
- ※4 赤の直線：長期変化傾向

出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2021」（気象庁福岡管区気象台ホームページ）

◆図表 2-2-7 鹿児島県各地の年降水量及び季節ごとの変化傾向

地域	単位	年	春 (3～5月)	夏 (6～8月)	秋 (9～11月)	冬 (12～2月)	統計期間 (年)
鹿児島	mm/100年	235.3	3.0	227.1	-17.2	20.6	1884～2021
名瀬	mm/100年	-257.8	-105.4	-48.8	-30.3	-69.0	1897～2021
阿久根 ^{※1}	mm/50年	107.80	-59.7	260.1	-68.8	-15.1	1940～2021
枕崎 ^{※1}	mm/50年	399.9	9.3	302.4	101.1	-10.0	1924～2021
屋久島 ^{※1}	mm/50年	1457.5	578.5	192.9	186.3	519.3	1938～2021
種子島 ^{※1}	mm/50年	73.2	-237.9	258.5	33.7	-42.2	1949～2021
沖永良部 ^{※1}	mm/50年	-405.4	-300.9	99.8	39.7	-215.6	1970～2021

※1：観測期間が100年満たない地域

※2：数値は変化傾向（100年あたりの変化傾向（mm））を表しています。

出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2021」（気象庁福岡管区気象台ホームページ）

◆図表 2-2-8 奄美地方及び全国への台風の接近回数

項目	H29	H30	R1	R2	R3	平均	最小	最大
奄美地方 ^{※1}	3	9	1	4	2	3.8	1	9
全国 ^{※2}	8	16	15	7	12	11.6	7	16

※1：「奄美地方に接近した台風」：台風が中心が鹿児島県の奄美地方のいずれかの気象官署等から300km以内に入ったもの

※2：「全国へ接近した台風」：台風が中心が国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入ったもの

出典：「台風の統計資料」（気象庁ホームページ）

2-3 人口・世帯数

1 本圏域の人口推移

令和3年度末の本圏域の行政区域内人口は和泊町が6,216人、知名町が5,611人、本圏域が11,827人となっており、平成24年度の6,891人（和泊町）、6,455人（知名町）、13,346人（本圏域）と比べると、本圏域としては11.4%減少（-1,519人）しており、人口は減少傾向となっています。

一世帯あたりの人口は、近年の働き方の変化等により転入者と転出者の差は少なくなっている印象はありますが、単身・独居世帯の増加や進学・就職による若者の転出増加等の現状は依然として変わらない状況となっています。なお、令和3年度末の一世帯あたりの人口は和泊町が1.92人/世帯、知名町が1.88人/世帯、本圏域が1.90人/世帯で、平成24年度の2.17人/世帯（和泊町）、2.06人/世帯（知名町）、2.12人/世帯（本圏域）と比べると、本圏域としては10.2%減少（-0.22人/世帯）しており、一世帯あたりの人口についても減少傾向となっています。

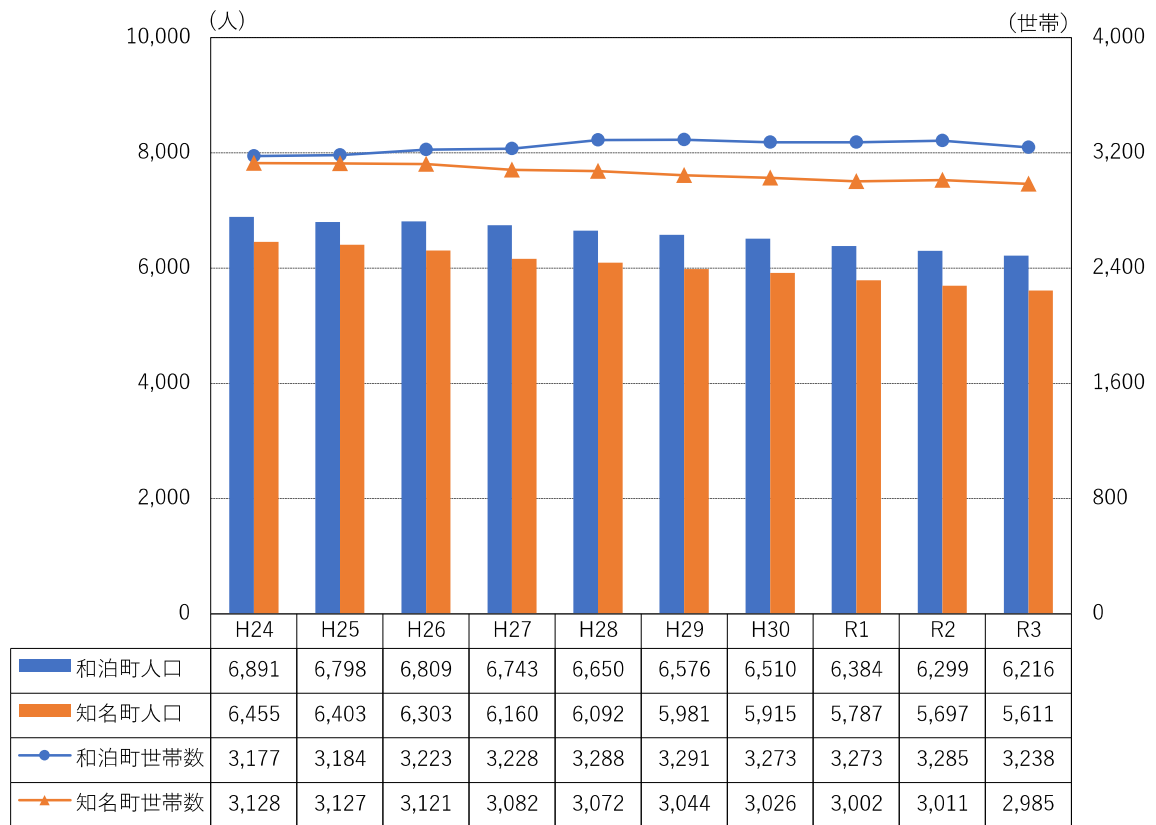
◆図表 2-3-1 本圏域の人口・世帯数の実績

項目	和泊町			知名町			本圏域		
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	一世帯当たり の人口 (人/世帯)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	一世帯当たり の人口 (人/世帯)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	一世帯当たり の人口 (人/世帯)
H24	6,891	3,177	2.17	6,455	3,128	2.06	13,346	6,305	2.12
H25	6,798	3,184	2.14	6,403	3,127	2.05	13,201	6,311	2.09
H26	6,809	3,223	2.11	6,303	3,121	2.02	13,112	6,344	2.07
H27	6,743	3,228	2.09	6,160	3,082	2.00	12,903	6,310	2.04
H28	6,650	3,288	2.02	6,092	3,072	1.98	12,742	6,360	2.00
H29	6,576	3,291	2.00	5,981	3,044	1.96	12,557	6,335	1.98
H30	6,510	3,273	1.99	5,915	3,026	1.95	12,425	6,299	1.97
R1	6,384	3,273	1.95	5,787	3,002	1.93	12,171	6,275	1.94
R2	6,299	3,285	1.92	5,697	3,011	1.89	11,996	6,296	1.91
R3	6,216	3,238	1.92	5,611	2,985	1.88	11,827	6,223	1.90
増減 (H24比)	▲ 675 ▲ 9.8%	61 1.9	▲ 0.25 ▲ 11.5%	▲ 844 ▲ 13.1%	▲ 143 ▲ 4.6%	▲ 0.18 ▲ 8.9%	▲ 1,519 ▲ 11.4%	▲ 82 ▲ 1.3%	▲ 0.22 ▲ 10.2%

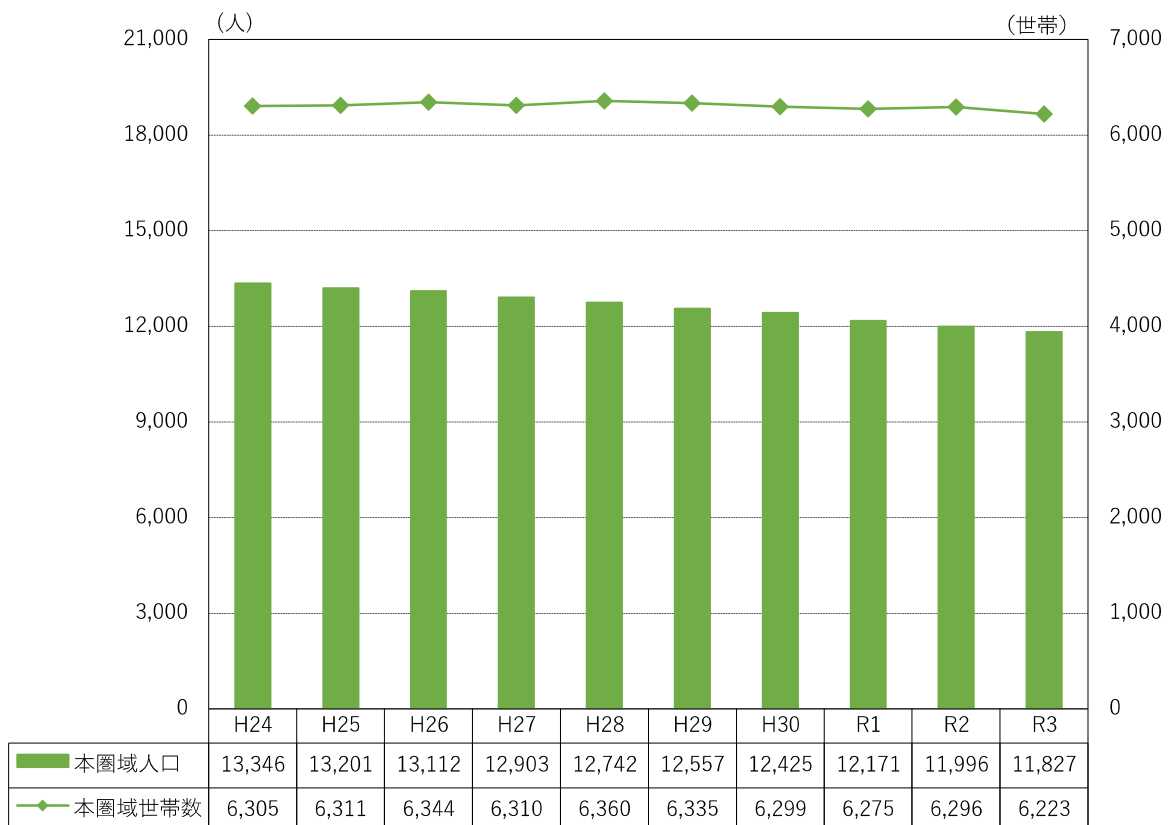
※当該年度の3月31日現在の人口及び世帯数

出典：「人口世帯集計表」

◆図表 2-3-2 和泊町及び知名町の人口・世帯数の推移及び経年変化



◆図表 2-3-3 本圏域の人口・世帯数の推移及び経年変化



2 年齢別人口構成

総務省が公表している「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」を基にした令和3年度の年齢別人口構成を図表2-3-4～9に示します。本圏域では生産年齢人口が最も多く、48.1%を占めている一方、高齢人口も37.7%を占め、高齢化が目立つ人口構成になっています。また、和泊町及び知名町ともに60代の人口が多く、和泊町では総人口の17.4%、知名町では総人口の18.6%以上を占めており、人口ピラミッドの形状は「ひょうたん型」で、生産年齢人口に比べて老年人口や幼年少人口が多く、若年層の人口流出が多い地域や農漁村に多くあらわれる特徴となっています。

◆図表 2-3-4 本圏域の年齢別人口構成（令和3年度）

項目	和泊町（人）			知名町（人）			本圏域（人）			
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	
幼 年 少 人 口	0～4歳	244	127	117	224	98	126	468	225	243
	5～9歳	331	173	158	303	140	163	634	313	321
	10～14歳	327	168	159	278	142	136	605	310	295
	小計	902	468	434	805	380	425	1,707	848	859
	(構成比率)	(14.3%)	(15.0%)	(13.6%)	(14.1%)	(13.3%)	(14.8%)	(14.2%)	(14.2%)	(14.3%)
生 産 年 齢 人 口	15～19歳	228	119	109	211	109	102	439	228	211
	20～24歳	134	70	64	102	58	44	236	128	108
	25～29歳	196	114	82	159	82	77	355	196	159
	30～34歳	275	128	147	206	114	92	481	242	239
	35～39歳	371	188	183	338	165	173	709	353	356
	40～44歳	373	186	187	341	188	153	714	374	340
	45～49歳	361	193	168	298	156	142	659	349	310
	50～54歳	354	192	162	265	145	120	619	337	282
	55～59歳	347	195	152	288	151	137	635	346	289
	60～64歳	462	239	223	458	246	212	920	485	435
小計	3,101	1,624	1,477	2,666	1,414	1,252	5,767	3,038	2,729	
(構成比率)	(49.0%)	(51.9%)	(46.2%)	(46.6%)	(49.4%)	(43.6%)	(48.1%)	(50.7%)	(45.4%)	
老 齢 人 口	65～69歳	635	331	304	598	321	277	1,233	652	581
	70～74歳	567	296	271	537	293	244	1,104	589	515
	75～79歳	315	152	163	301	153	148	616	305	311
	80～84歳	272	118	154	278	122	156	550	240	310
	85～89歳	275	91	184	267	114	153	542	205	337
	90～94歳	177	32	145	151	48	103	328	80	248
	95～99歳	72	18	54	51	8	43	123	26	97
	100歳～	9	0	9	10	1	9	19	-	18
	小計	2,322	1,038	1,284	2,193	1,060	1,133	4,515	2,097	2,417
(構成比率)	(36.7%)	(33.2%)	(40.2%)	(38.3%)	(37.0%)	(39.5%)	(37.7%)	(35.0%)	(40.2%)	
総数	6,325	3,130	3,195	5,727	2,861	2,866	11,989	5,983	6,005	

※令和4年1月1日現在

出典：「住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）」（総務省）

◆図表 2-3-5 和泊町及び知名町の世代別人口構成（令和3年度）

年代	和泊町（人）			知名町（人）		
	総数	男	女	総数	男	女
～10代	1,130 (17.9%)	587 (18.7%)	543 (17.0%)	1,016 (17.9%)	489 (17.1%)	527 (18.8%)
20代	330 (5.2%)	184 (5.9%)	146 (4.6%)	261 (4.6%)	140 (4.9%)	121 (4.3%)
30代	646 (10.2%)	316 (10.1%)	330 (10.3%)	544 (9.6%)	279 (9.8%)	265 (9.4%)
40代	734 (11.6%)	379 (12.1%)	355 (11.1%)	639 (11.3%)	344 (12.1%)	295 (10.5%)
50代	701 (11.1%)	387 (12.4%)	314 (9.8%)	553 (9.8%)	296 (10.4%)	257 (9.1%)
60代	1,097 (17.4%)	570 (18.2%)	527 (16.5%)	1,056 (18.6%)	567 (19.8%)	489 (17.4%)
70代	882 (13.9%)	448 (14.3%)	434 (13.6%)	838 (14.8%)	446 (15.6%)	392 (14.0%)
80代～	805 (12.7%)	259 (8.3%)	546 (17.1%)	757 (13.4%)	293 (10.3%)	464 (16.5%)
総数	6,325 (100.0%)	3,130 (100.0%)	3,195 (100.0%)	5,664 (100.0%)	2,854 (100.0%)	2,810 (100.0%)

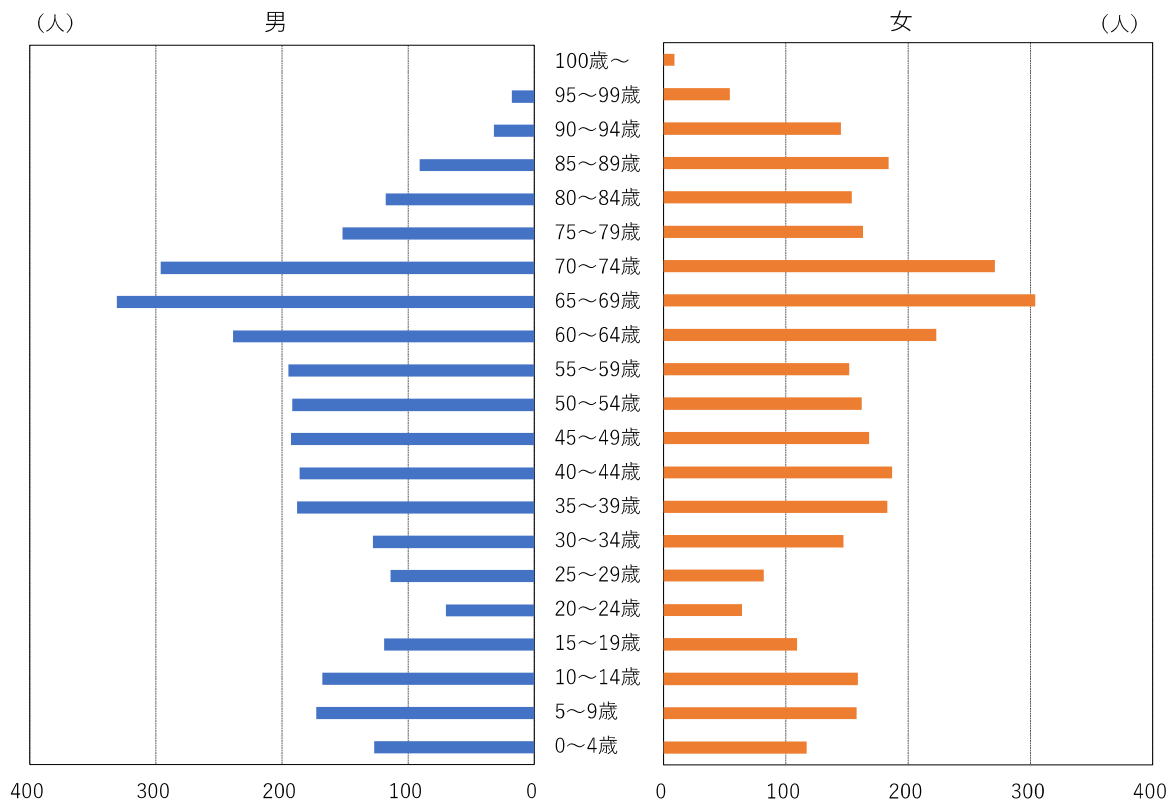
※令和4年1月1日現在

出典：「住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）」（総務省）

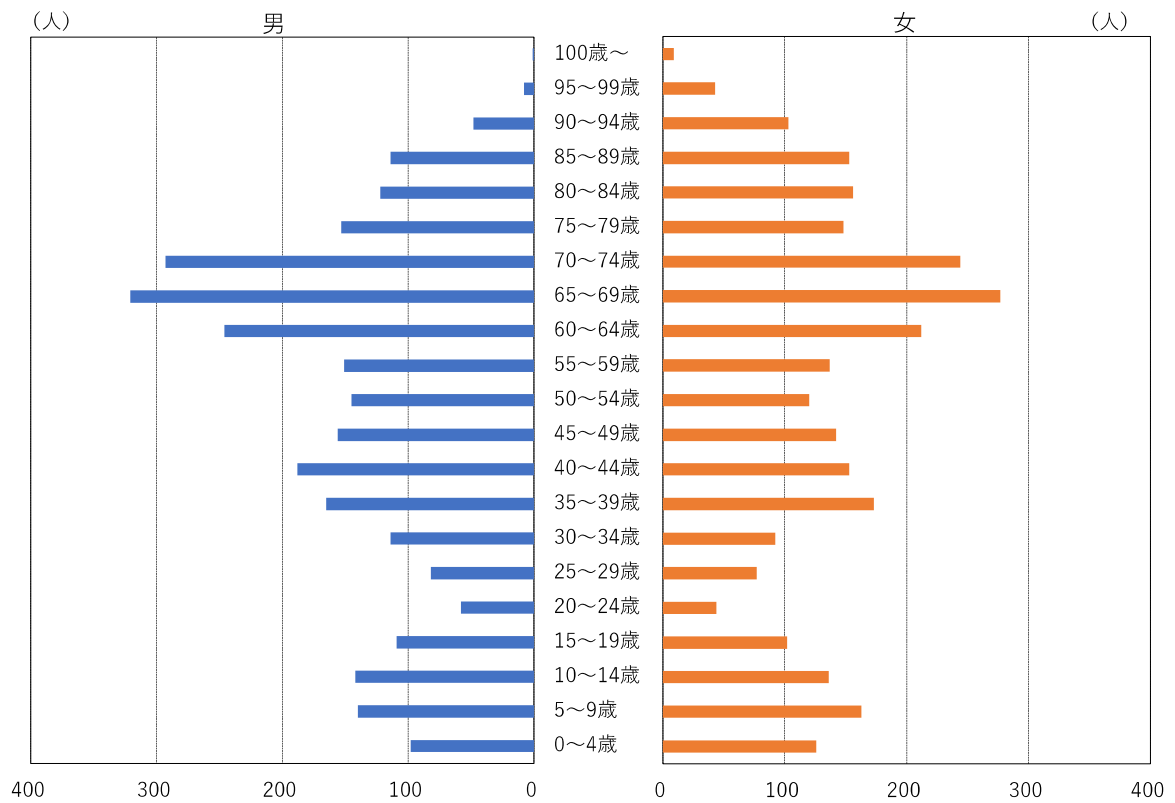
◆図表 2-3-6 和泊町及び知名町の世代別人口構成の推移及び経年変化（令和3年度）



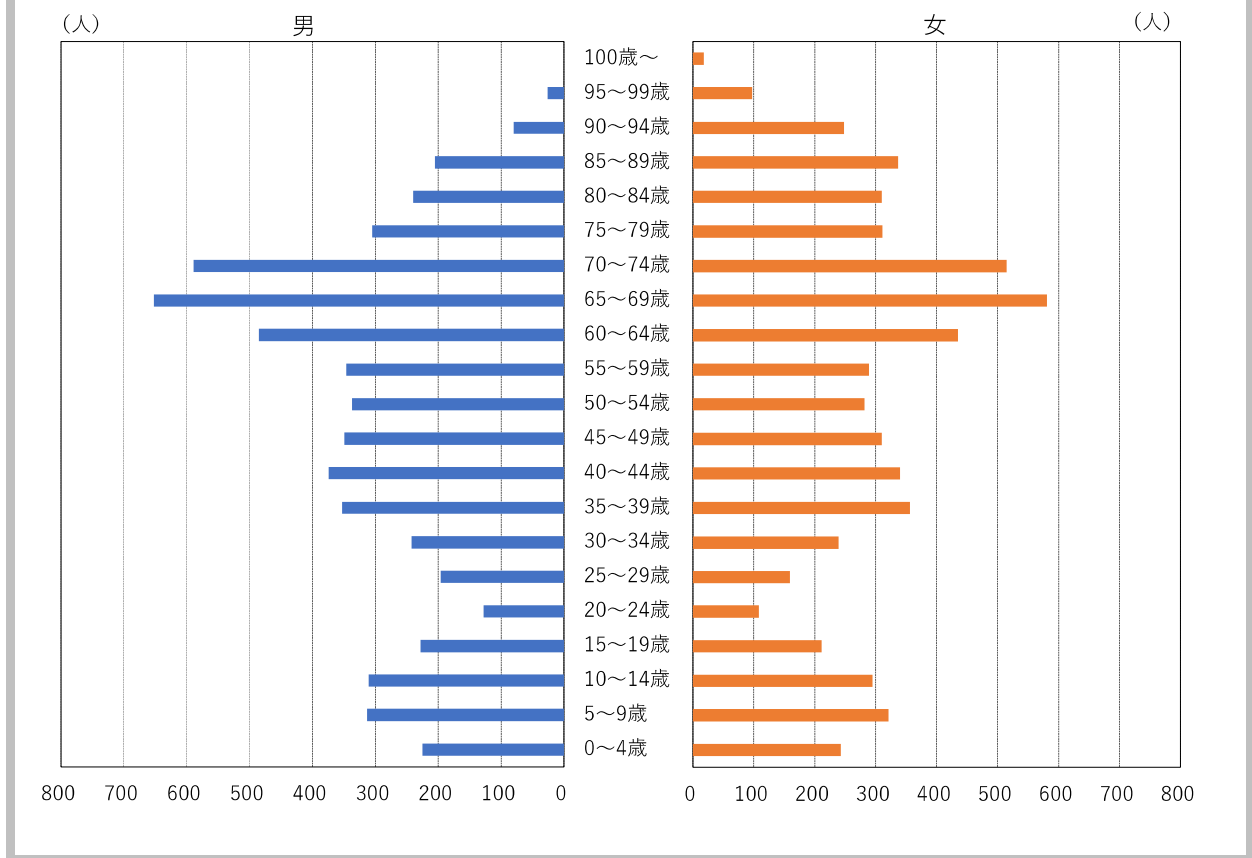
◆図表 2-3-7 和泊町の年齢別人口構成（令和 3 年度）



◆図表 2-3-8 知名町の年齢別人口構成（令和 3 年度）



◆図表 2-3-9 本圏域の年齢別人口構成（令和3年度）



3 人口動態

総務省統計局が公表している「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」を基にした平成29年度～令和3年度における本圏域構成町の人口動態について、以下に示します。

(1) 和泊町

和泊町の平成29年度～令和3年度における人口動態の実績を図表2-3-10に、人口動態の推移を図表2-3-11に示します。

和泊町の令和3年度の人口は6,325人で、平成29年度～令和3年度における人口動態は自然動態及び社会動態いずれもマイナスであり、行政区域内人口は減少傾向にあります。

◆図表 2-3-10 和泊町の人口動態の実績

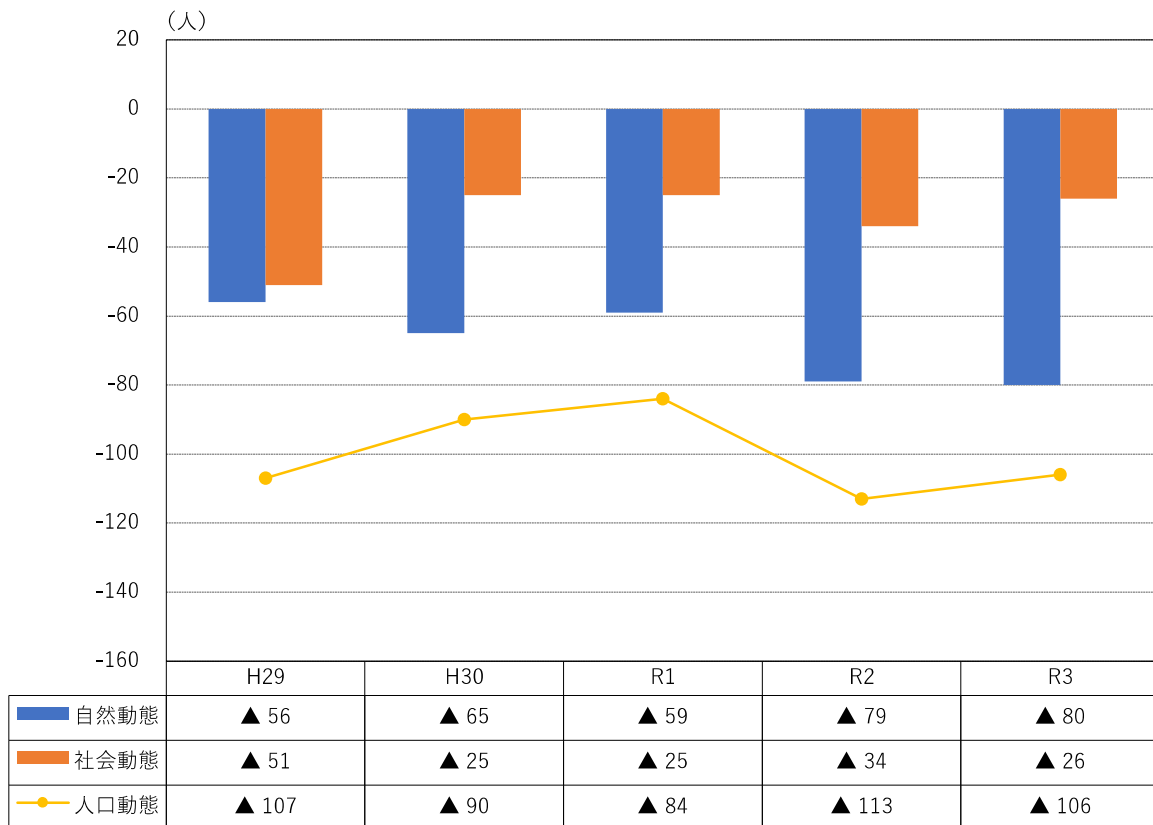
項目	自然動態（人）			社会動態（人）			行政区域内人口（人）	
	出生	死亡	増減	転入・その他	転出・その他	増減	人口	増減
H29	51	107	▲ 56	402	453	▲ 51	6,731	▲ 107
H30	48	113	▲ 65	416	441	▲ 25	6,631	▲ 90
R1	39	98	▲ 59	351	376	▲ 25	6,537	▲ 84
R2	52	131	▲ 79	349	383	▲ 34	6,427	▲ 113
R3	34	114	▲ 80	397	423	▲ 26	6,325	▲ 106

※1：各年の自然動態、社会動態は同年の1月1日から12月31日の1年間の増減数

※2：各年の行政区域内人口は翌年の1月1日の値

出典：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（総務省）

◆図表 2-3-11 和泊町の人口動態の推移



(2) 知名町

知名町の平成29年度～令和3年度における人口動態の実績を図表2-3-12に、人口動態の推移を図表2-3-13に示します。

知名町の令和3年度の人口は5,727人であり、平成29年度～令和3年度における人口動態では、自然動態は平成29～令和3年度までいずれもマイナスで、社会動態は平成30年度及び令和3年度を除きマイナスになっています。

また、目立った変化としては、社会動態における「転入・その他」が令和3年度で365人となり、大きく増加しています。

◆図表 2-3-12 知名町の人口動態の実績

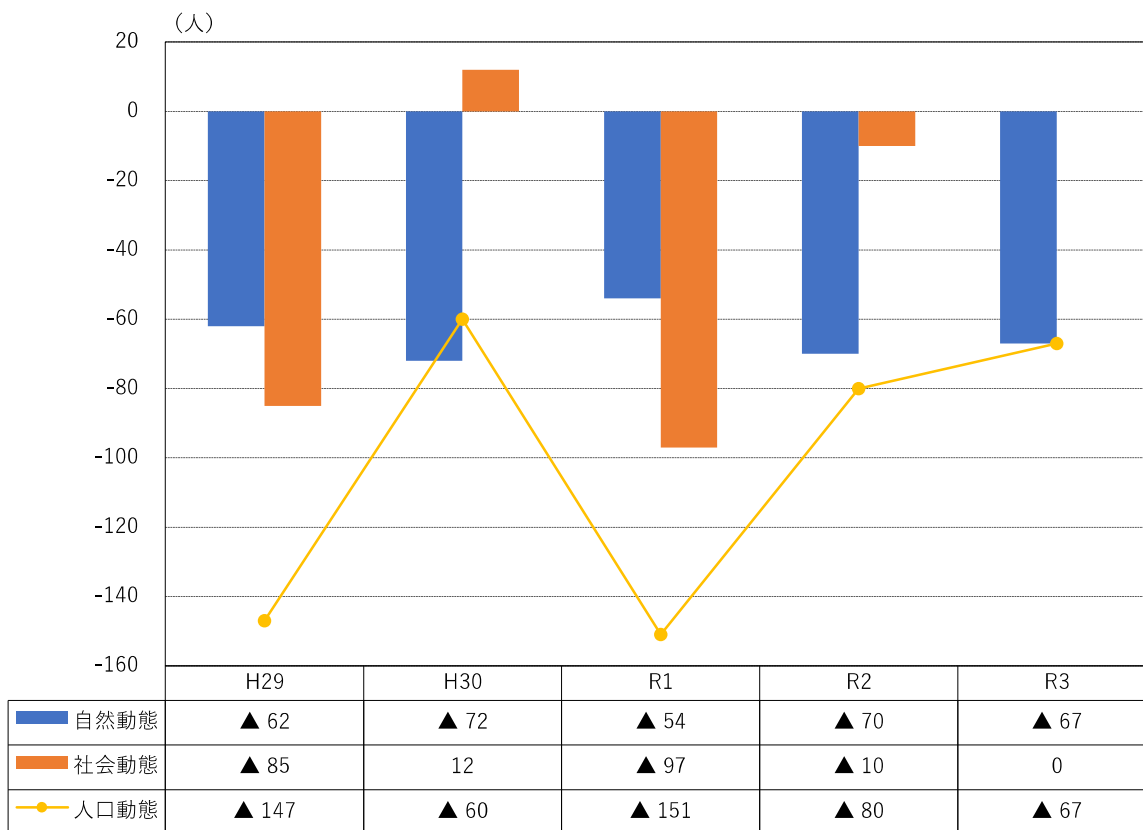
項目	自然動態（人）			社会動態（人）			行政区域内人口（人）	
	出生	死亡	増減	転入・その他	転出・その他	増減	人口	増減
H29	45	107	▲ 62	334	419	▲ 85	6,076	▲ 147
H30	40	112	▲ 72	331	319	12	6,015	▲ 60
R1	47	101	▲ 54	294	391	▲ 97	5,871	▲ 151
R2	23	93	▲ 70	298	308	▲ 10	5,796	▲ 80
R3	46	113	▲ 67	365	365	0	5,727	▲ 67

※1：各年の自然動態、社会動態は同年の1月1日から12月31日の1年間の増減数

※2：各年の行政区域内人口は翌年の1月1日の値

出典：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（総務省）

◆図表 2-3-13 知名町の人口動態の推移



(3) 鹿児島県全体との相対比較

本圏域と鹿児島県全体の平成29年度～令和3年度における人口動態の実績を図表2-3-14に、人口動態増減率の推移を図表2-3-15に示します。

鹿児島県全体の人口動態は、増減率-0.80~-0.73%で毎年ほぼ一定のペースで減少しています。一方、本圏域の人口動態は平成30年度を除き、鹿児島県全体の約2倍の増減率で減少しています。

◆図表 2-3-14 本圏域及び鹿児島県全体の人口動態の実績

項目	鹿児島県全体									本圏域										
	自然動態(人)			社会動態(人)			総数(人)			増減率(%)	自然動態(人)			社会動態(人)			総数(人)			増減率(%)
	出生	死亡	増減	転入・その他	転出・その他	増減	増減	人口	出生		死亡	増減	転入・その他	転出・その他	増減	増減	人口			
H29	13,225	21,748	▲ 8,523	62,597	66,081	▲ 3,484	▲ 12,007	1,655,888	▲ 0.73	96	214	▲ 118	736	872	▲ 136	▲ 254	12,807	▲ 1.98		
H30	13,019	21,966	▲ 8,947	62,800	65,983	▲ 3,183	▲ 12,130	1,643,437	▲ 0.74	88	225	▲ 137	747	760	▲ 13	▲ 150	12,646	▲ 1.19		
R1	11,973	21,628	▲ 9,655	63,038	66,378	▲ 3,340	▲ 12,995	1,630,146	▲ 0.80	86	199	▲ 113	645	767	▲ 122	▲ 235	12,408	▲ 1.89		
R2	11,677	21,398	▲ 9,721	59,015	61,613	▲ 2,598	▲ 12,319	1,617,850	▲ 0.76	75	224	▲ 149	647	691	▲ 44	▲ 193	12,223	▲ 1.58		
R3	11,621	21,844	▲ 10,223	58,547	60,749	▲ 2,202	▲ 12,425	1,605,419	▲ 0.77	80	227	▲ 147	762	788	▲ 26	▲ 173	12,052	▲ 1.44		

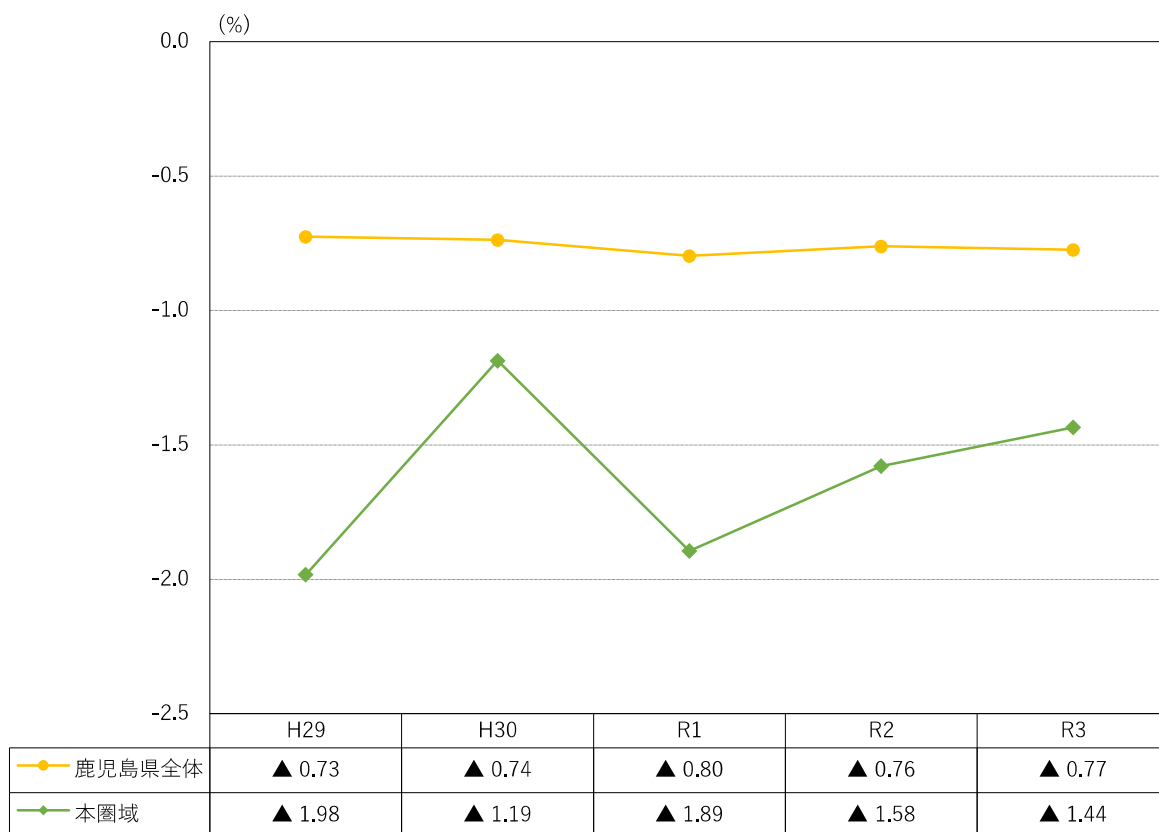
※1：各年の自然動態、社会動態は同年の1月1日から12月31日の1年間の増減数

※2：各年の行政区域内人口は翌年の1月1日の値

※3：本圏域の人口動態は和泊町及び知名町の合計数

出典：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(総務省)

◆図表 2-3-15 本圏域及び鹿児島県全体の人口動態増減率の推移



2-4 産業

1 産業別事業所数及び従業者数

総務省統計局が公表している「経済センサスー活動調査」による本圏域の産業別事業所数及び従業者数を図表2-4-1～5に、本圏域と鹿児島県全体との比較を図表2-4-6～7に示します。

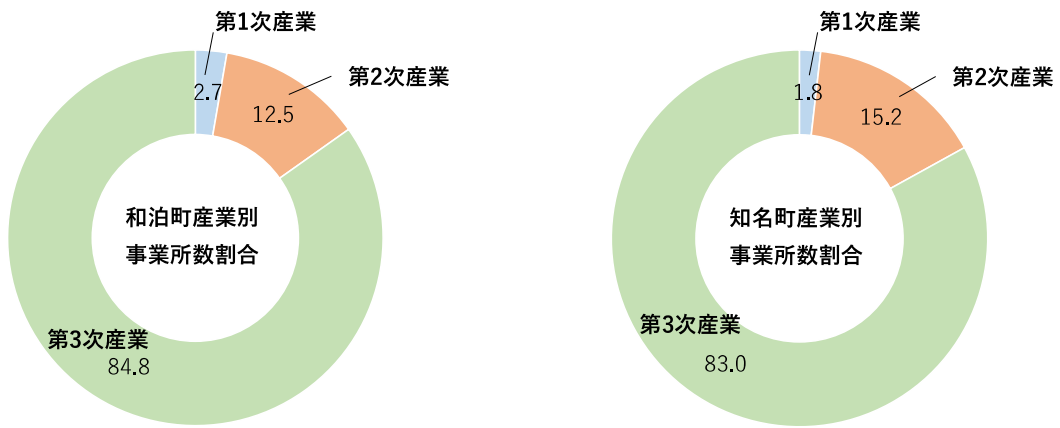
事業所数は和泊町及び知名町ともに第3次産業が約80%を占めており、その中でも「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」となっています。また、従業者数も事業所数と同様に和泊町及び知名町ともに第3次産業が80%以上を占めており、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の従業者が多くなっています。

なお、鹿児島県全体と本圏域の産業別事業所数及び従業者数の割合を比較すると、本圏域の産業別従業者は第1次産業への従業者の割合が3.6%であり、鹿児島県の第1次産業従業者(2.5%)と比べ、多くなっています。

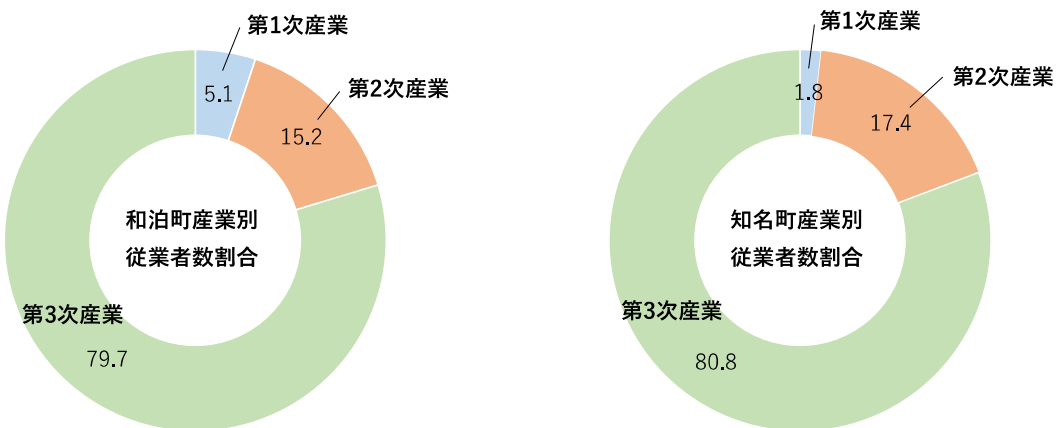
◆図表 2-4-1 和泊町及び知名町の産業別事業所数及び従業者数（令和3年度）

項目		事業所数（件）		従業者数（人）	
		和泊町	知名町	和泊町	知名町
第1産業	農林漁業	12	7	127	40
第2次産業	鉱業、採石業、砂利採取業	2	-	10	-
	建設業	34	42	237	309
	製造業	19	17	134	70
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	1	4	5	22
	情報通信業	3	-	11	-
	運輸業、郵便業	11	7	99	83
	卸売業、小売業	122	87	594	351
	金融業、保険業	8	3	49	13
	不動産業、物品賃貸業	17	18	43	22
	学術研究、専門・技術サービス業	8	11	18	35
	宿泊業、飲食サービス業	79	58	216	206
	生活関連サービス業、娯楽業	35	42	146	87
	教育、学習支援業	23	30	139	261
	医療、福祉	34	34	542	541
	複合サービス業	5	5	37	39
	サービス業（ほかに分類されないもの）	27	24	100	98
	小計 (構成比率)	373 (84.8%)	323 (83.0%)	1,999 (79.7%)	1,758 (80.8%)
総数		440	389	2,507	2,177

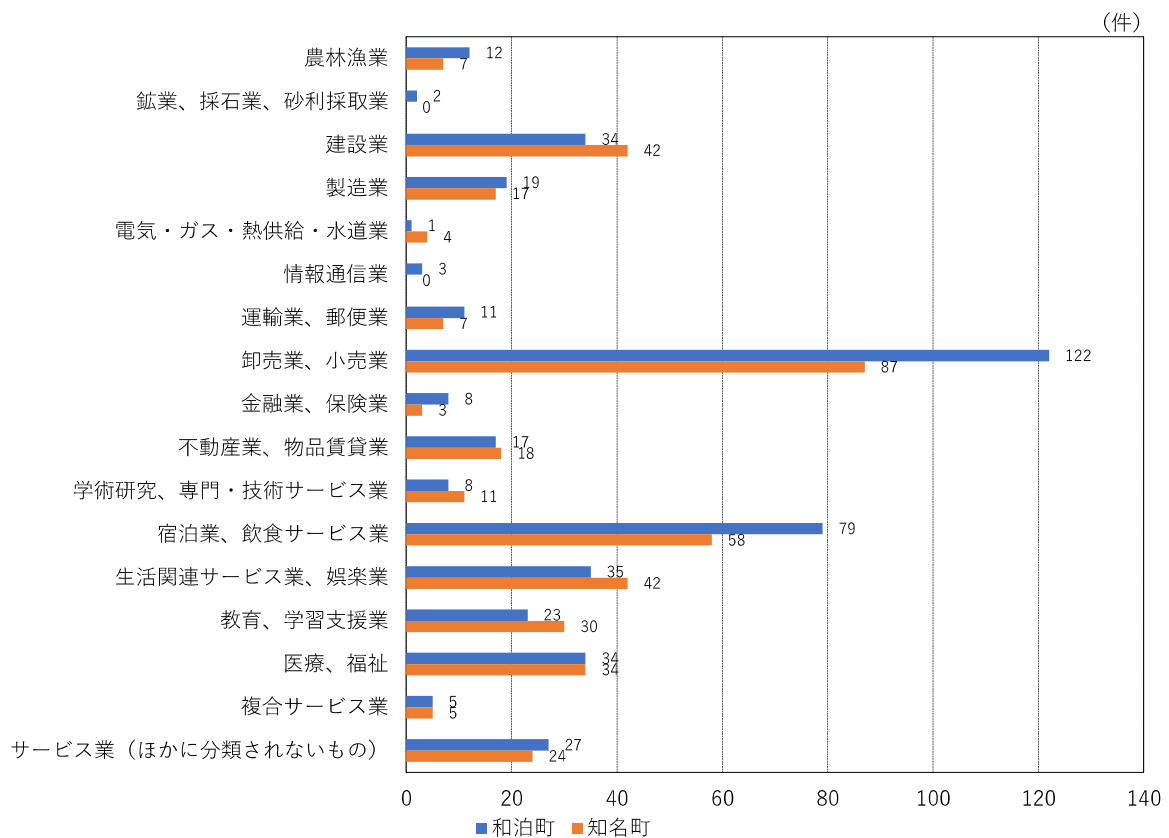
◆図表 2-4-2 和泊町及び知名町の産業別事業所数割合（令和3年度）



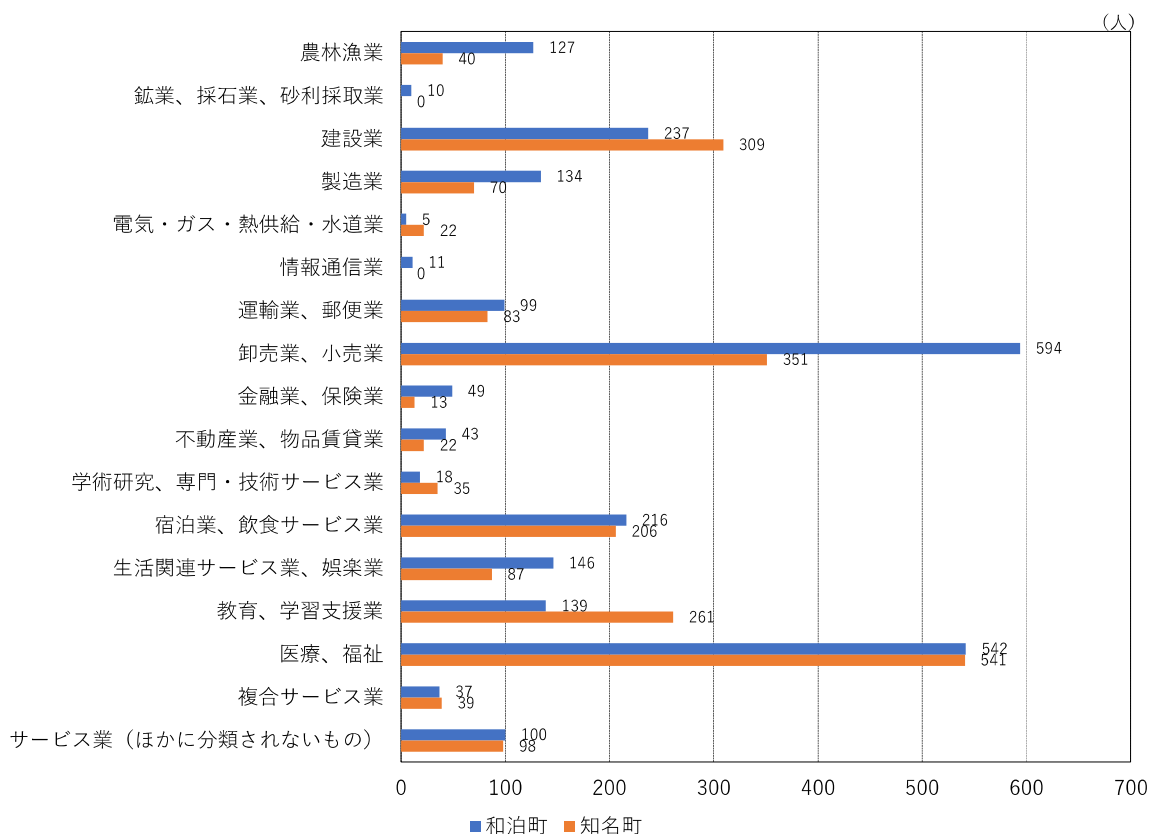
◆図表 2-4-3 和泊町及び知名町の産業別従業者数割合（令和3年度）



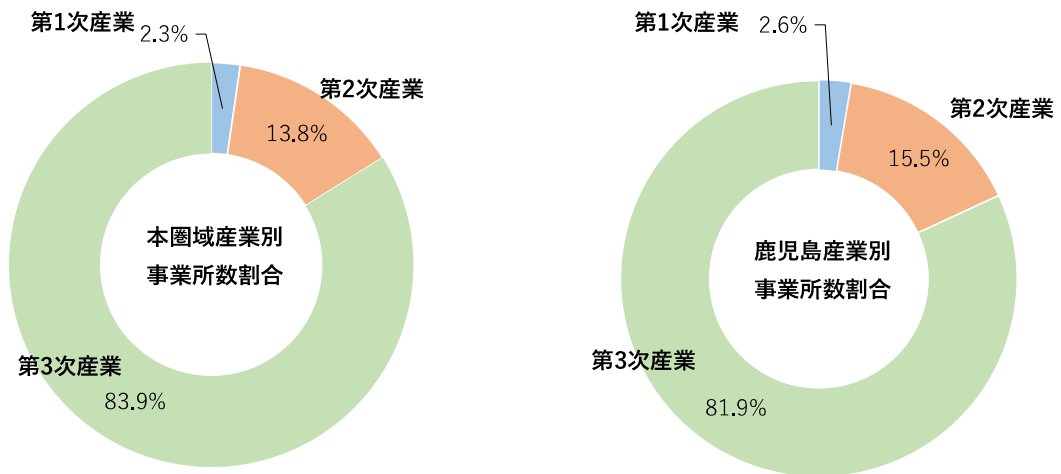
◆図表 2-4-4 和泊町及び知名町の産業別事業所数（令和3年度）



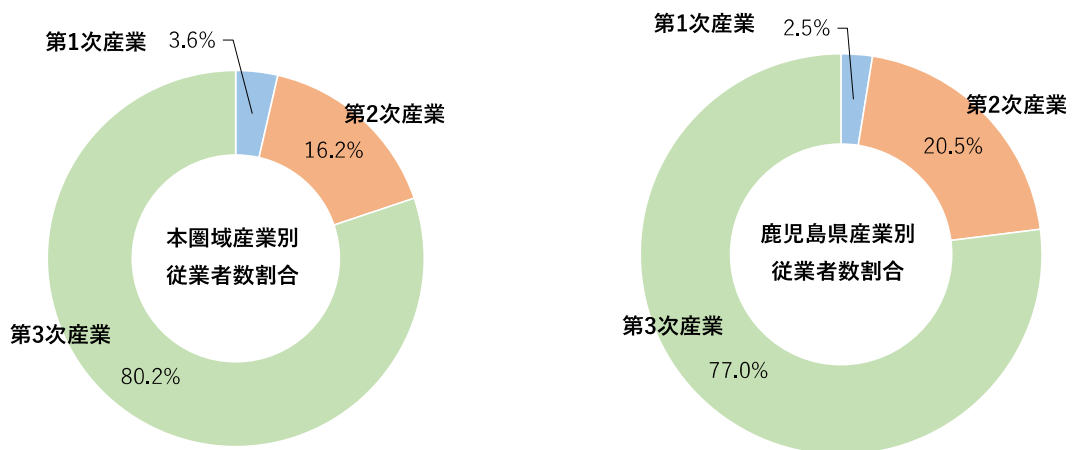
◆図表 2-4-5 和泊町及び知名町の産業別従業者数（令和3年度）



◆図表 2-4-6 本圏域及び鹿児島県の産業別事業所数割合（令和 3 年度）



◆図表 2-4-7 本圏域及び鹿児島県の産業別従業者数割合（令和 3 年度）



2 農業

農家数は図表2-4-8～9に示すように、和泊町及び知名町ともに約96%を販売農家が占めています。また、耕地面積は図表2-4-10～11に示すように、和泊町及び知名町ともに99%以上を畑が占めています。

◆図表 2-4-8 和泊町及び知名町の農家数（令和 2 年度）

単位：戸

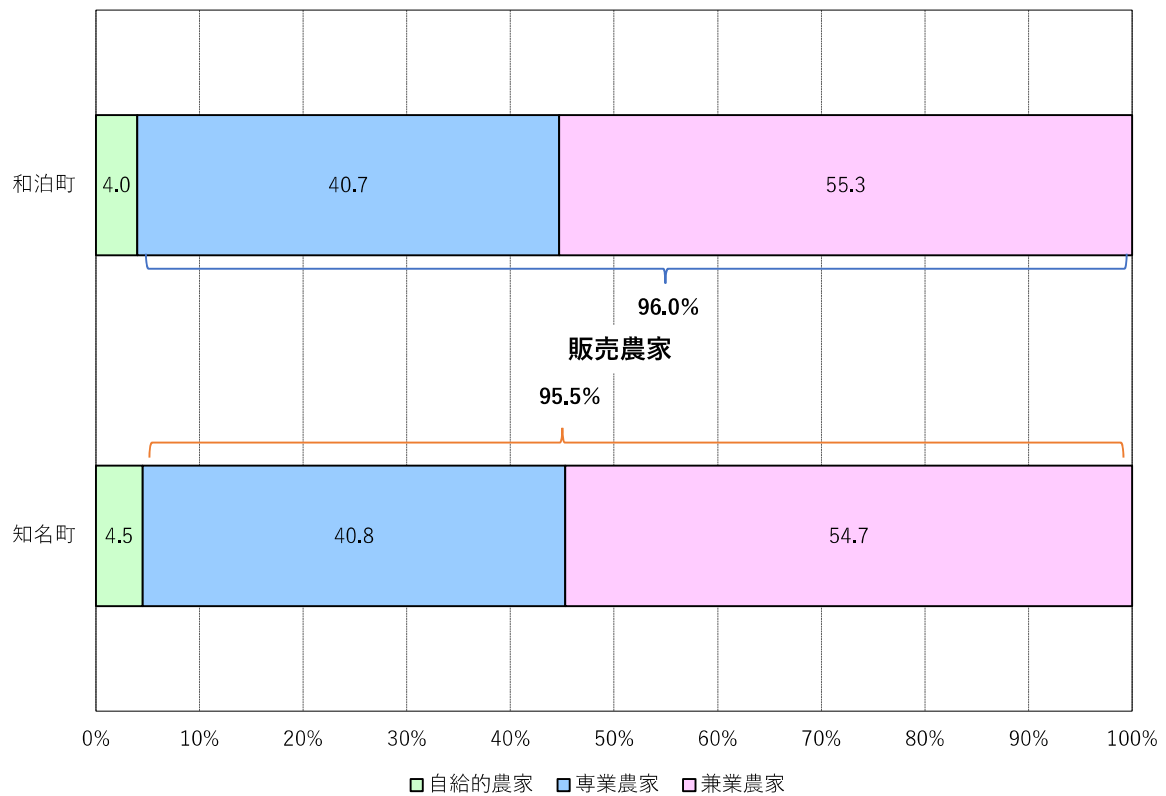
項目	農家数	販売農家		専業	兼業	兼業農家	
		自給的農家	専業			第 1 種	第 2 種
和泊町	698	29	669	281	382	85	297
知名町	677	32	645	276	370	81	289

※1：第 1 種（兼業農家）：農業所得を主とする兼業農家

※2：第 2 種（兼業農家）：農業所得を従とする兼業農家

出典：「2020年農林業センサス」（農林水産省ホームページ）

◆図表 2-4-9 和泊町及び知名町の形態別農家数の比率（令和 2 年度）



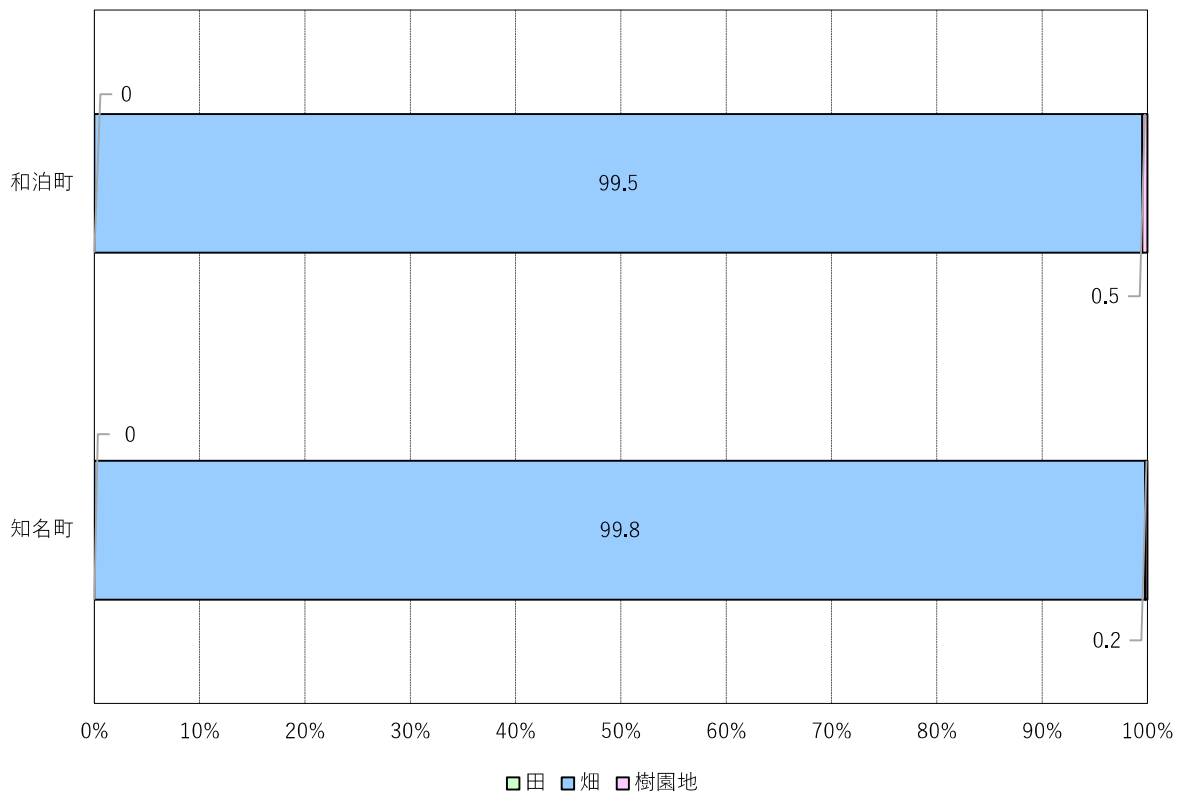
◆図表 2-4-10 和泊町及び知名町の耕地面積（令和 2 年度）

単位：ha

項目	経営耕地面積	耕地面積		
		田	畑	樹園地
和泊町	1,803	—	1,795	9
知名町	1,737	—	1,733	5

出典：「2020年農林業センサス」（農林水産省ホームページ）

◆図表 2-4-11 和泊町及び知名町の耕地面積の比率（令和 2 年度）



2-5 将来計画の整理

和泊町及び知名町において策定した上位計画である「第6次和泊町総合振興計画」（令和2年3月）及び「第6次知名町総合振興計画」（令和2年3月）の概要を以下に示します。

1 第6次和泊町総合振興計画（R2.3）

和泊町の「第6次和泊町総合振興計画」（令和2年3月）の概要を図表2-5-1に示します。

◆図表 2-5-1 第6次和泊町総合振興計画の概要（その1）

項目	概要
基本構想	<p>◆第6次和泊町総合振興計画（令和2年度～令和11年度：10年間）</p> <p>* 目標年度：令和13年度</p> <p>* 基本理念：みんなが主役 × 人と心を育む × 自然に寄り添う</p> <p>* 将来像：【人と未来をつなぐ、心豊かな和の町、和泊町】</p> <p>* これからの10年間をつくる新たな取り組み</p> <p>①むうるほうらしゃプロジェクト</p> <p>②みじらしゃエリアプロジェクト</p> <p>③まちゅんどプロジェクト</p> <p>④むうーるし、ふでいらさープロジェクト</p> <p>⑤みへでいるプロジェクト</p> <p>⑥ようていあしばープロジェクト</p> <p>⑦あたらむープロジェクト</p>
新たな取り組み	<p>【人と未来をつなぐ、心豊かな和の町、和泊町】</p> <p>2030年を見据えて、今後の新たなまちづくりにおいて中心的な役割を担う7つのプロジェクトを掲げ、農産物や海産物、自然資源、美しい景色や環境など、様々な恩恵を与えてくれる島の豊かな自然に寄り添いながら「未来」に引継ぎ、利便性や物質的豊かさだけでなく、全ての町民が心豊かに暮らせるまちを創ります。</p> <p>☆これからの10年間をつくる新たな取り組み☆</p> <p>①むうるほうらしゃプロジェクト ※むうるほうらしゃ：みんな喜ぶ</p> <p>* プロジェクト内容</p> <p>交通環境づくりを行い自転車の活用を推進することで環境負荷の低減を図るとともに、観光客の移動手段を増やすことで心豊かな空間と時間を創出します。</p> <p>* 課題</p> <p>和泊町は自動車での移動が主流であり、多くの町民が近距離でも自動車で移動をするため、健康面が課題となります。自動車優先の和泊町においては、子供が安心して自転車に乗れる環境が少なく、また、環境問題の側面においても温室効果ガス排出量の大幅削減が喫緊の課題であるため、自転車の活用が重視されています。</p> <p>* メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民の運動不足が解消し、健康増進が図られるため、医療費の削減に繋がります。 ・ 自転車に関連した新サービスを開始する事業者が増え、雇用が増えることで、人口増加への足掛かりになります。 ・ サイクリング大会などの競技会が活発に行われることで、島外より参加する旅行者が増え、交流の活性化に繋がります。 ・ 自転車置き場やベンチなどが整備されることでコミュニティスペースが形成され、活発な交流が見込めます。 ・ 自転車利用の増加により、自転車通行に対する意識が高まり、自転車通学をする子どもたちの安全性が高まります。 ・ 自転車利用促進により、自動車利用が減少することで温室効果ガス削減効果が高まり、環境負荷の低減に繋がります。

出典：第6次和泊町総合振興計画（令和2年3月）

◆図表 2-5-1 第6次和泊町総合振興計画の概要（その2）

項目	概要
<p>新 た な 取 り 組 み</p>	<p>②みじらしゃエリアプロジェクト ※みじらしゃ：おもしろい・楽しい</p> <p><u>*プロジェクト内容</u> 役場周辺の空き店舗を活用し、高齢者が住みやすいまちづくりを目指します。</p> <p><u>*課題</u> 生活維持のための移動手段の確保や日々の生活における介護サービスの提供が困難になることが予想されます。</p> <p><u>*メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場周辺に移住することで、役場等での手続きの利便性が向上し、買い物などの支援を受けやすくなります。 ・エリア内に学童などを開設することで多世代交流を可能にし、伝統風習の継承や育児軽減を図ることができます。 ・高齢者が住んでいた自宅をファミリー世代などに貸し出すことで人口減少・高齢化を軽減することができます。 ・在宅介護、施設介護の他の選択肢として、相互見守りを含めた高齢者の自立した生活の継続が可能になります。 <p>③まちゅんどプロジェクト ※まちゅんど：待ってます・歓迎します</p> <p><u>*プロジェクト内容</u> 子どもたちが島に居住している間に、島の歴史・文化・自然などに触れる「郷土学」と島における「職業学」について学び、島を離れても継続的に島とのつながりを持つ「関係づくり」、島に戻ってきたくなる「場所づくり」を行い、若者が島に帰ってくる環境を構築します。</p> <p><u>*課題</u> 東京一極集中型の人口流出状態が続いており、地方における若年層の人口流出と急速な少子高齢化による人口減少が加速し、地域の衰退を招いています。</p> <p><u>*メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土学を学ぶことにより島へに愛着を持つ子どもが増えます。 ・進学や就職などで島を離れた若者が島とのつながりを維持することで郷土愛が育まれます。 ・Uターン者、移住者が増え、島に多様な知識やアイデアが持ち込まれることで、地域経済の活性化が期待できます。 <p>④むうーるし、ふでいらさープロジェクト ※むうーるし、ふでいらさー：みんなで育てよう</p> <p><u>*プロジェクト内容</u> 地域全体で子供の成長を見守り、手助けを行うことで社会全体の子育てに対する意識を変え、島ならではの子育てにやさしい環境を構築します。</p> <p><u>*課題</u> 子育てにおける様々な悩みや不安要素があることに加え、子育て世代において、子どもとの遊び方がわからないといった「子育てする力」が低下し、家庭ではスマホを見ている時間が増え、友達とのコミュニケーションをとることが難しい子どもが増えているため、子育て世代の「子育てする力」を向上させる必要があります。</p> <p><u>*メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親、父親などそれぞれの立場に合わせたセミナーを開催し、みんなで子育てをする環境を整えます。 ・多世代が様々な活動を通じ、子育て世代と交流することでコミュニケーション力の向上、遊びの伝承に繋がります。 ・地域で子育てする意識を醸成し、子育てに対する不安を軽減させることができます。 <p>⑤みへでいるプロジェクト ※みへでいる：ありがとう・感謝</p> <p><u>*プロジェクト内容</u> 島の自然の恵みに感謝し、資源を有効に活用し、農林水産業の活性化を図り次世代へつなぐ生業へと進化させます。</p> <p><u>*課題</u> 島外から輸送されてくる生鮮食料は輸送コストが高いため、販売価格も高価で、今後エネルギーの高騰が進めば、物価への影響が想定されることに加え、台風などの自然災害などで物資が届かなくなれば食料不足につながるため、島内自給率を高める地産地消、低炭素化に対する島民の意識改革が必要となります。</p> <p><u>*メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが農業に触れるきっかけやものづくりへの好奇心、人とのつながりなどを引き出すことができます。 ・島内で自給自足することで食料が手に入りやすくなり、災害時にも食に困らないまちづくりに繋がります。 ・直売所施設は既存の空き店舗を活用することで、無駄な開発を行わず、今ある町に賑わいを創出します。

出典：第6次和泊町総合振興計画（令和2年3月）

◆図表 2-5-1 第 6 次和泊町総合振興計画の概要（その 3）

項目	概要
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">新たな取り組み</p>	<p>⑥ようていあしばープロジェクト ※ようていあしばー：集まって遊ぼう</p> <p><u>*プロジェクト内容</u> 各種イベントやスポーツ大会による集客を見込め交流ができるアリーナとして、普段は子育て世代が活用できるスペースとして、災害時には避難所として利用できるような、本町のスポーツや文化の拠点となる多目的な施設を建設します。</p> <p><u>*課題</u> 現状では、各種競技の誘致や文化・イベントの開催ができるような総合体育館がなく、学校施設に頼っており、学校行事との調整や準備及び後片付けに支障が出ていることに加え、安全な施設整備を望む町民や子育て世代の声も多くなっています。</p> <p><u>*メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、文化振興などの拠点施設として、各種イベントの実施が可能にあり、心身健全な育成に貢献できます。 ・雨の日や猛暑日でも安心して子どもたちが遊べる施設ができることで、子どもたちが社会性を学ぶことができます。 ・島外からアーティストなどの著名人等呼び込むことで、交流人口の増加、島内への経済波及効果も期待できます。 ・設備の整った避難所としての機能を持たせることで、災害時に迅速かつ的確な対応を行うことが可能となります。 <p>⑦あたらむープロジェクト ※あたらむー：もったいない</p> <p><u>*プロジェクト内容</u> 使い捨てという利便性だけを重視した使い方やものあり方、簡単にものを廃棄する価値観が定着しており、持続可能な社会の構築に向け、限りある資源を大切に、ごみの排出量を減らし、無駄をなくす暮らしの実現に向けて様々な取り組みを実施します。</p> <p><u>*課題</u> ごみ焼却量が増えると二酸化炭素排出量が増えるため、地球温暖化に繋がり、ごみの中間処理後の焼却灰や不燃性ごみは管理型最終処分場に埋立処分となりますが、最終処分場にも限界があるため、ごみ焼却施設や最終処分場の長寿命化を図るうえでも燃えるごみの適切な処理を考え、ごみ焼却量を減らす必要があります。</p> <p><u>*メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃えるごみを減らし、ごみ焼却量が減ることで、ごみ焼却施設や最終処分場の延命に繋がります。 ・二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を削減することで環境負荷の低減に貢献できます。 ・生ごみの排出を減らす調理法などをうまく活用することで無駄がなく、家計にとって優しい暮らしに繋がります。 ・ごみを出さない暮らしに価値転換することで、資源を有効利用し、次世代に資源豊かな未来を継承できます。

出典：第6次和泊町総合振興計画（令和2年3月）

2 第 6 次知名町総合振興計画（R2.3）

知名町の「第6次知名町総合振興計画」（令和2年3月）の概要を図表2-5-2に示します。

◆図表 2-5-2 第 6 次知名町総合振興計画の概要（その 1）

項目	概要
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">将来計画</p>	<p>◆第6次知名町総合振興計画（令和2年度～令和8年度：7年間）</p> <p><u>*目標年度</u>：令和10年度</p> <p><u>*未来像</u>：【21の暮らしを大切に、21の未来を創る 子や子孫が誇れる まちづくり】</p> <p><u>*基本理念</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①：いつまでも暮らし続けたい環境の維持・整備 ②：持続していくためのコミュニティの創出・育成 ③：未来を支える産業競争力の強化と次代を担う人づくり

出典：第6次知名町総合振興計画（令和2年3月）

◆図表 2-5-2 第6次知名町総合振興計画の概要（その2）

項目	概要
行動方針	<p>●行動方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①：暮らしやすい良好な生活環境の確保 ②：適切な公共交通と安全に通行できる道路環境の整備・維持 ③：住みよい住宅環境に向けた総合的な取り組みの推進 ④：町の自然環境の保護・整備 ⑤：地理的特性に縛られない情報通信環境の確保 ⑥：実用的な都市計画の推進 ⑦：町民サービスなどの充実・効率化 ⑧：安心して出産し、子育てが出来る環境づくり ⑨：適切な医療が受けられる環境、体制の整備・維持 ⑩：子どもから高齢者まで安心して健やかに過ごせる町づくり ⑪：これまで以上にイキイキと女性が活躍できる町の実現 ⑫：字の特色・魅力を活かした持続可能な地域づくりの推進 ⑬：見守り、声を掛け合える、安心して暮らしていける環境の整備・維持 ⑭：災害などへの自主防災力の向上と災害に強い社会基盤整備 ⑮：稼げる地域をつくる農業・水産業・観光業を軸とした農工商等連携や六次産業化の推進 ⑯：基幹産業である第一次産業を中心とした担い手の獲得・育成 ⑰：地域経済に寄与できる町外企業の誘致・支援 ⑱：起業・継業も含め、意欲を持って働ける仕事の創出と就労支援 ⑲：競争力ある街を支える産業・商工業基盤の整備・維持 ⑳：地域に愛着・誇りを持って、特色ある教育活動の推進と地域格差がない教育環境の充実 ㉑：次代を担う子や孫が帰ってきたいと思える地域づくりの推進
管理方針	<p>●管理方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①：知名町ならではの視点で、主体性・独自性を大切にする ②：持続可能な未来をつくる
取り組み	<p>●課題1：地域の担い手不足</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ①移住推進 ②定住推進 ③人材育成 ④住宅、空き家対策 <p>●課題2：子育て世代の減少</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ①定住推進 ②子育て支援 ③教育振興 ④住宅、空き家対策 <p>●課題3：産業の停滞</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ①人材育成 ②産業振興施策 <p>●課題4：商店・企業等の減少</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ①企業、継業支援 ②企業誘致 <p>●課題5：観光客の減少</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ①インバウンド対策 ②観光振興施策 <p>●課題6：地域活力の停滞</p> <p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ①場づくり ②コミュニケーション機会の創出 ③地域機能の強化

出典：第6次知名町総合振興計画（令和2年3月）

◆図表 2-5-2 第6次知名町総合振興計画の概要（その3）

項目	概要
取 り 組 み	<ul style="list-style-type: none"> ●課題7：定住意向の減退 <取り組み> ①定住推進 ②防災・減災への取り組み ③自主防災組織の確立、強化 ④地域のつながりの強化 ●課題8：他地域との格差 <取り組み> ①リテラシー教育 ②定住推進 ③情報格差の解消 ●課題9：地域資源の減退 <取り組み> ①エネルギー対策 ②自然環境の保護、管理

出典：第6次知名町総合振興計画（令和2年3月）